

都市ブランドを創造する 屋外広告物の研究(中間報告)

2013.0915

中村伸之(関西ブロック)

プロジェクトのメンバー

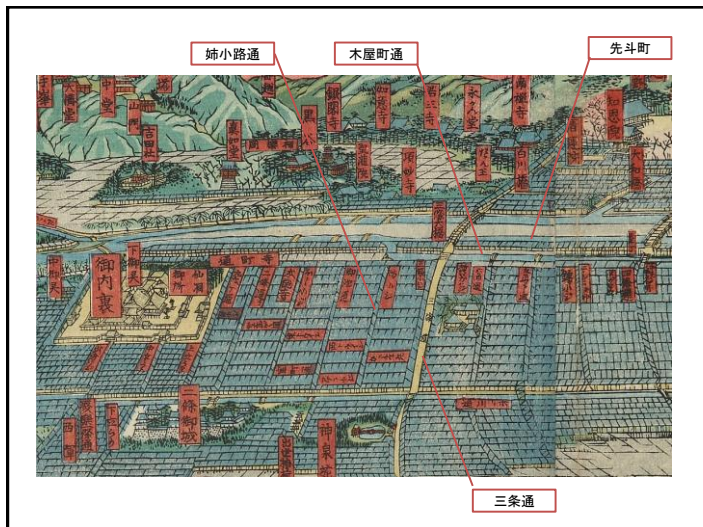
- 高橋芳文(関東)、中村伸之(関西)
 - JUDI会員:宮沢 功、藤本英子、内藤郁子、
西 斗志夫、峰 朗展
- (協力)
- NPO法人ストリートデザイン研究機構
 - NPO法人京都景観フォーラム
 - まちづくり協議会:姉小路、先斗町、三条通

目的と手法

- 都市ブランドの創造に貢献し、都市の活力を呼び起こす屋外広告物や店舗のあり方を研究し提案する。
- フィールドワークや歴史的絵画資料から、エリアのブランド像を探り、誘導型のガイドラインを提案する。
- 地域まちづくり協議会のメンバーに提示して、広告景観のあり方をともに考える。
- 今後の出店や改装の手引きになるパンフレットを発行する。(2013年度予定)

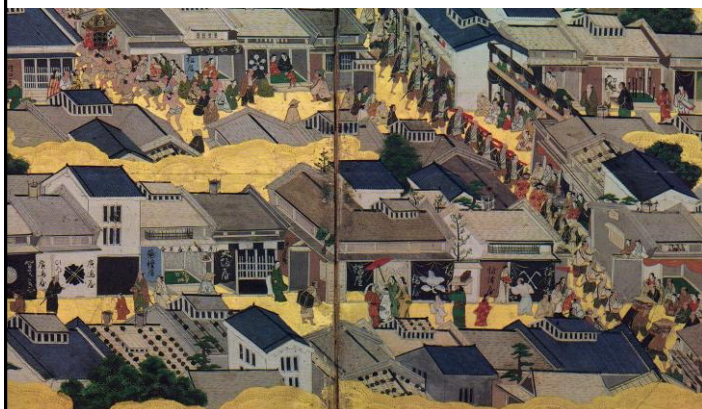
都市ブランドと表層の景観

- 成熟し多様な生業が分化した都市では、文化や景観の特性のあるエリアがモザイク状に入り組んでいる。それぞれのエリアの特性を「**都市ブランド**」と呼んでも良いし、「サブカルチャー」(C・アレグザンダー)と呼んでも良い。
- 街区構造や建築様式はコロコロ変わるわけではない。店構えや看板など、生業に即対応できる「**表層**」が、都市の「今」を表出している。



2. 生業表出の景観、看板や店構え

『洛中洛外図(歴博D本)』二条城東のまち
日除暖簾が間口を覆っている(江戸時代前期)



コミュニティの中の商いと店構え ～街並みと店構えの原型

- 三条油小路町並絵巻(文政3年[1820])
- 特定の取引先だけで商売をする染め関係の職人さんは屋号の暖簾を掛けるだけ。閉鎖的で内部も見えない。
- 屋号だけでは何屋か分らない＝一見さんは想定外
- 各店にははったり床几があり、通りがコミュニティの場になっている。
- 釜師(鑄物)は戸を開け放ち、鍋を並べている。商品が看板の役割を果たしている。
- し好みである煙管屋は上下に看板を出して戸を開けている。

江戸時代の町並み(三条油小路西側 文政3年[1820])



格子、暖簾、看板、虫籠窓、犬矢来
ばったり床几

張物師、板締職、仲のし職、大工職、呉服師……
店と言うよりも、染めの各工程の工房が集まっている

江戸時代の町並み(三条油小路東側 文政3年[1820])



呉服師、上絵師、張物師、醤油売買、古服師、中形師、米売買、張物師、古服師、紋紗師

江戸時代の町並み(三条油小路東側 文政3年[1820])

戸を開け商品を並べる店(鑄物師)



戸を開け看板を出す店(きせる屋)



明治時代の店舗(呉服商『都の魁』明治16年[1883])

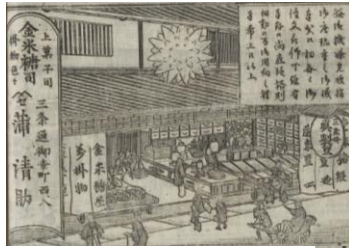


屋号入りの水引暖簾、
屋号入りの長暖簾、
屋号入りの半暖簾、
商品名入りの日除け暖簾、
ガラス燈、
商品を見せる開け放した店



屋号を強調(尊重)
する傾向がある

明治時代の店舗(和菓子店 『都の魁』明治16年[1883])



金平糖の立体看板
 商品名入りの提灯
 商品名入りの長暖簾
 商品棚を見せる
 店名入りの水引暖簾
 木製看板(3タイプ)
 商品名入りの旗

屋号よりも商品名を
 強調する傾向がある

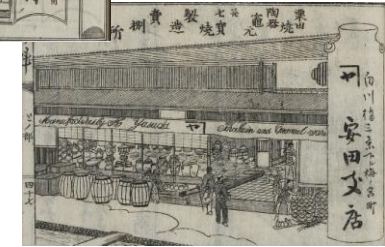


明治時代の店舗(お土産店 『都の魁』明治16年[1883])



英語のひさし看板(大)
 英語の水引暖簾
 絵画的な日除け暖簾
 商品棚を見せる
 店先に商品を並べる
 摺上障子(日除け、商品展示)

外国人向けに?
 文字よりも商品やビ
 ジュアルを強調する
 傾向がある



明治時代の店舗(薬商 『都の魁』明治16年[1883])



おびただしい木製看板
 なぜ薬屋は立派な看板をつくるのか?

文字の呪力か?
 薬効は見ても分から
 ないので、看板で権
 威づける傾向がある
 のか?



明治時代の店舗(ガラス燈製造所 『都の魁』明治16年[1883])



この店が、近年まで板金屋をやっていたのを姉小路の人々は覚えていた

一見さんは看板、ブランドは暖簾？

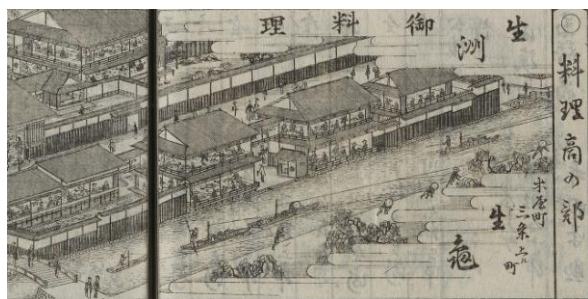
- (『三条油小路絵巻』では) 不特定多数の一見さんの来ない商売(染めの職人さんなど)は暖簾一枚で営業している
- 一見さんがあまり来ない、「住」が中心のまちでは、店は町内コミュニティと親密で、ぱったり床几がある
- 一見さんも買う店は、戸を開け放ち、商品を店頭並べる
- 煙管などの嗜好品の店は看板を出す
- 『都の魁』に掲載されるような店は、不特定多数(一見さん)を期待している
- 高価な品(呉服など)を扱う店は水引暖簾、長暖簾などで、屋号(ブランド)を強調する
- 和菓子のように多様な商品がある業種では、看板・暖簾・提灯で主力商品名を強調する
- 外国人向けのお土産屋では、文字よりもビジュアルで勝負
- 薬屋は、薬効が見た目で分らないので看板で権威づける？

三条通の店舗(『都の魁』明治16年[1883]) メインストリートの多様な業種の大店



木屋町の料亭(『都の魁』明治16年[1883])

- 1, 2階が宴席、高瀬川沿いの板塀は防犯か？
橋付近に忍び返し 船着きもある



先斗町の料亭(『都の魁』明治16年[1883])



花街と言っても、先斗町には過剰な装飾はない。1階の宴席は床として鴨川に張り出し、2階の宴席からは鴨川と東山の景観が楽しめただろう。
竹村屋は私設の「竹村橋」を架けたことで有名。鴨川の中州に納涼床を出した。生吉樓は通りの両側に店を構え、庭には生簀があった。



尺度＝町割り、小規模間口、通りの幅員
 枠組み＝ファサードに現れる建築構造

3. 町並みの尺度と枠組みから看板や店構えを考える

都市空間の慣性力 (by 田端修)・・・小規模間口が継承される

京都市明細図
 (1927頃から
 1951頃)

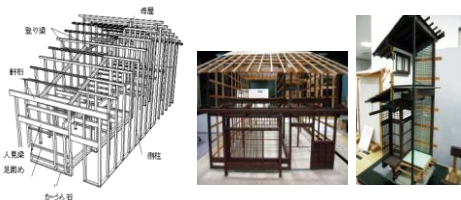


現在



町家の割付けが作る空間軌範

- 小規模間口から派生する町家のスケール感、軸組みの柱や梁の割付けは町並み空間の規範となる
- これは人体のスケール感、着物から室内に至る身の回りの寸法に近い「人間と都市を親しくつなぐスケール感」と言える。
- 建築様式が異なっても、このような空間軌範を受け継ぐことで町並みの連続感や地域アイデンティティが保持される
- この空間軌範を基準にした、看板・店構えは可能だろうか？



三条通の業種と店構え(明治期)

上菓子司

木綿商

薬商



姉小路通の町並みモデル (モデルとなる店舗を寄せ集めた)



江戸後期の町並み(三条油小路絵巻より)



先斗町の小規模間口性と町並み景観

- 「先斗町の町並みは茶屋様式をはじめとして和風感をゆたかに受け継いでいると結論づけてよい」
(『「京の先斗町会」の活動記録」田端ほか)
- 小規模間口、狭い道路が先斗町の景観を規定しており、茶屋様式はその敷地によく適した様式である。
- たとえ様式は異なっても、その空間軌範(スケール感やプロポーション)を守ることが町並みの継承となるのではないか。



見どころ 『著名な書家による看板の数々』

◆この都心界隈には著名な書家による看板が数多く見られます。

- ①「創筆寺町電末茶」(山本高山)
- ②「春芳堂」(竹内橋風)
- ③「袖味堂」(北大路山人)
- ④「彩雲堂」(富岡鉄斎)
- ⑤「舞臺ほうる」(西田天香)
- ⑥「福松堂」(福橋玉)
- ⑦「桂月堂」(富岡鉄斎)
- ⑧「亀屋政友」(武者小路実篤)



◆界隈の町家等の活用・再生事例
図中の内容を参考にしてください。

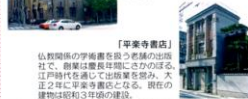


「姉小路界隈を考える会」提供

見どころ 『歴史的建造物の数々』

『京都市有形登録文化財』

【旧京都中央電話局】 大正末期に京都中央電話局の通信局舎として建設された。設計は京田新造。現在は新築品として再利用され、新しいファッションショップとして機能を浴びている。



『京都市歴史的意匠建造物』の数々



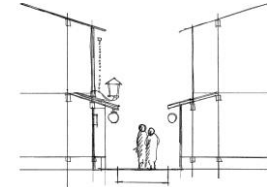
4. ガイドライン: エリアブランドを活かし 創造する屋外広告や店構え

先斗町の景観特性と空間規範

- **スケール感** (小規模間口、床や壁面への近接感) が特徴的
 - …要素を小ぶりに、過密・過剰にしない、壁面の余白を確保する
- 町並みの **質感** が近く感じられる
 - …石畳、木材、ベンガラ、漆喰、竹材、和紙などの自然素材
- 町家の **コンポジション** (タテヨコの構成線) が基準となっている
 - …割付け線(グリット)を基準に要素を配置する
- **車が走らない** ことで、落ち着きやゆったり感がある
 - …競争で看板を出さない 店の前に来て始めて分る看板
- **軒の存在感** が大きい(通りが狭いため)
 - …進行方向から見て、軒や提灯の高さが気になる
- **歩く楽しさ** がある
 - …人は路面を見て歩く。路面の素材や植栽や置物が楽しさをつくる
- **暖かな夜景** がある
 - …アットホーム感のある灯り、全体を柔らかく包む暖かい灯り
 - …格子やすだれ越しの柔らかない灯りや壁面への間接光(点でなく面)
 - …提灯の背景となることを意識して壁面をつくる

先斗町の誘導型ガイドライン(案1) 「そろえる」

原則として軒から上に看板は付けない方が良いが、ガス灯型屋外広告物などの2尺以下の歴史的な意匠の看板を1つつけることを奨励する。軒下の提灯は大きさ(尺丸提灯?)と高さを揃える。
軒をそろえる。高さをそろえる。質感をそろえる。色をそろえる。



そろう(高さ、素材、色相)



そろう(高さ、素材、色相)



そろう(高さ、素材、色相)



とぎれる(軒・壁面・素材の連続が)



とぎれる(軒・壁面・明度の連続が)



とぎれる(軒の連続・見通しが)



「ちらばる」から → 「おさめる」



ちらばる

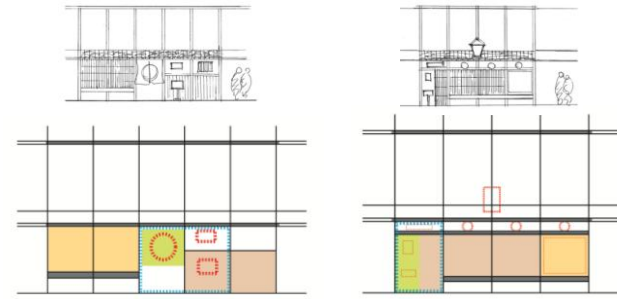


おさめる



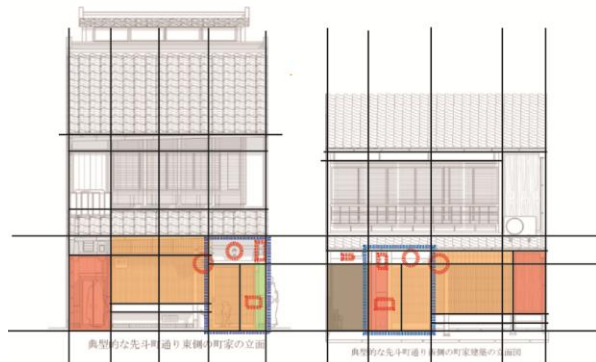
先斗町の誘導型ガイドライン(案2)
「おさめる」

看板、表札、提灯、メニュー台などは町家の割付けを基準に配置する
表札、メニュー台などを1~2スパンに収めることを奨励する
一部を「まちかどミュージアム」として地域文化のショーウィンドウとすることを奨励する



先斗町の誘導型ガイドライン(案2)

看板、表札、提灯、メニュー台などは町家の割付けを基準に配置する
表札、メニュー台などを1~2スパンに収めることを奨励する



先斗町の誘導型ガイドライン(案2)

看板、表札、提灯、メニュー台などは町家の割付けを基準に配置する
表札、メニュー台などを1~2スパンに収めることを奨励する



先斗町の誘導型ガイドライン(案2)

看板、表札、提灯、メニュー台などは町家の割付けを基準に配置する
表札、メニュー台などを1~2スパンに収めることを奨励する



枠組み(フレーム)と要素(エレメント)

ちらばる ↔ おさめる
とぎれる ↔ そろえる

要素(エレメント)の表情

素材、文化性、色彩、配置

各部位に現れる看板等の典型(先斗町)

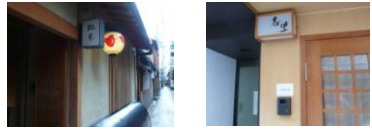
軒の上



足元



軒の下



壁面



三条通の「ちらばる」



三条通の「おさめる」



姉小路通の町並みモデル(モデルとなる店舗を寄せ集めた)



江戸後期の町並み(三条油小路絵巻より)



この先、三条通、姉小路通、
木屋町通、先斗町通は

